

KJ

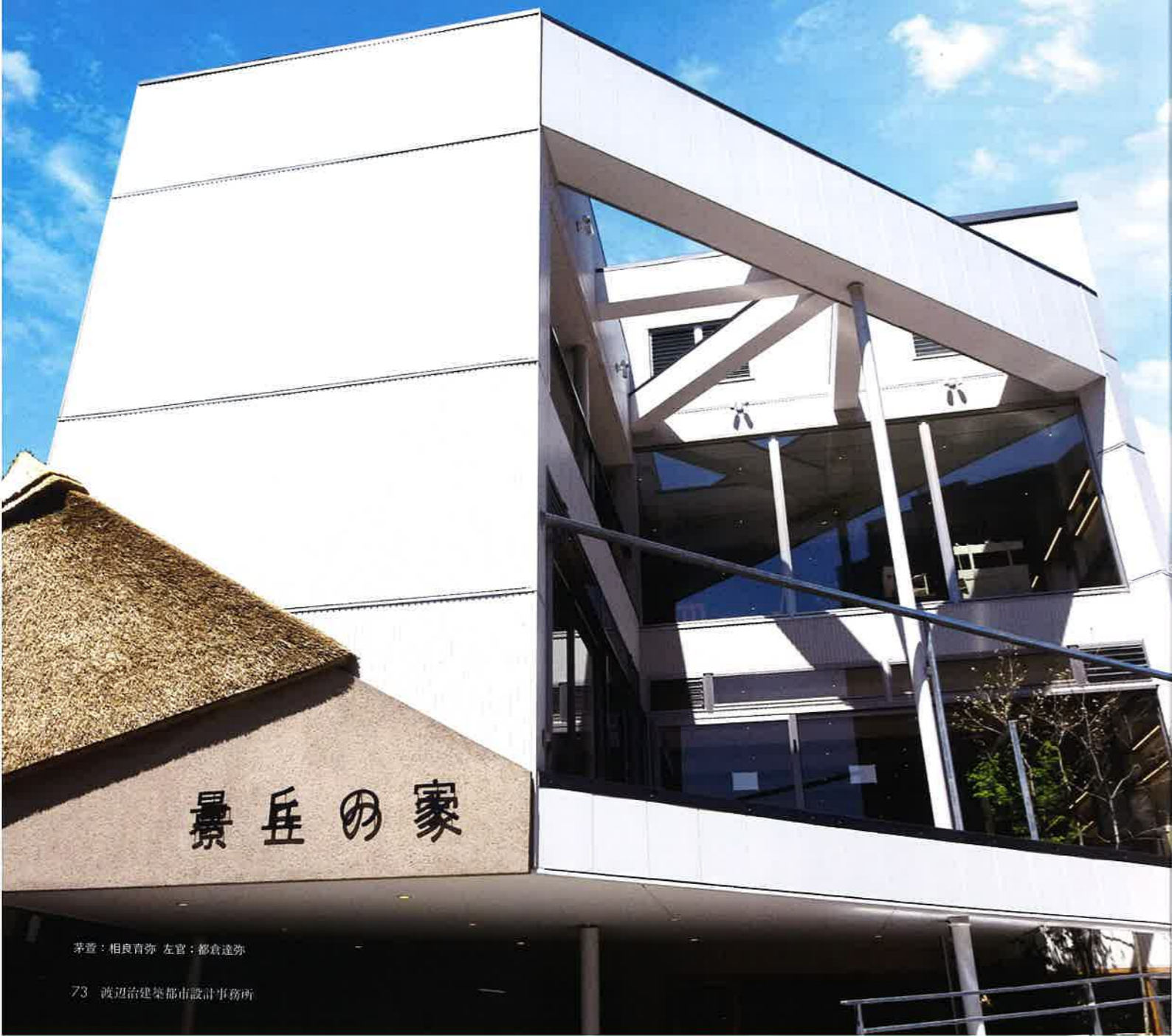
2021.12

SINCE 1961

渡辺治建築都市設計事務所
イクス・アーク都市設計
アブルデザインワークショップ
浅井謙建築研究所
清水建設関西支店

プラスニューオフィス

architect / 瀬戸健似 近藤創順
producer / 今井裕久



茅葺：相良育弥 左官：都倉達弥

渡辺治建築都市設計事務所

OSAMU WATANABE ARCHITECTS

渡辺 治

Osamu Watanabe

工学博士、一級建築士、技術士(都市及び地方計画)

1959年 北海道生まれ
1985年 北海道大学修士課程修了
1986年 ペンシルバニア大学修士課程修了
1991年 東京大学博士課程(高橋鷹志研究室)修了
1992年 渡辺治建築都市設計事務所設立
教員履歴：千葉工業大学、日本大学、日本工業大学



近年の主な受賞歴

2007年 第2回多摩のまちなみ建築デザイン賞「至誠保育園」立川商工会議所 藤森照信賞
2010年 第13回木材活用コンクール(新川人道橋~多摩産杉を使った世界一薄い複合橋(SW スラブ橋)~)
日本木材防腐工業組合 理事長賞
2015年 都市景観大賞「ジョンソントウン」都市空間部門 大賞(国交省大臣賞)
2016年 第10回キッズデザイン賞「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」最優秀賞(内閣総理大臣賞)
2016年 土木学会デザイン賞 ジョンソントウン 奨励賞
2017年 日本建築学会賞(業績)ジョンソントウン再生プロジェクト-米軍ハウスと創造的なコミュニティ、
新たなライフスタイルが織りなすまちづくり-
2017年 第11回キッズデザイン賞「JOHNSON TOWN」優秀賞(少子化対策担当大臣賞)
2021年 グッドデザイン賞「ジョンソントウン」金賞(経済産業大臣賞)



インドネシアの上空写真。大きな施設が見当たらない

Welfare Institution(福祉施設)：人を幸せにする施設

憲法25条 すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。②国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

これを国が守るために、「福祉施設」がつくられ、その義務をはたそうとする。これに基づきつくられた、「児童福祉法」によって定義されているのが保育施設(児童福祉施設)である。「福祉」ということは明治憲法にも、それまでのあらゆる文学や新聞記事、そのほかの文章で使われてこなかった英語の「Welfare」の訳語である。「社会福祉」を直訳すると、「人を幸せにする」となる。元来、子育ても高齢者の世話も家族がやっていた。そのような家族では「福祉施設」なるものは不要である。

かつて、葬式は町内会館や自宅でコミュニティや家族が集まって協力してやっていた。最近では葬儀会社の建物が増えている。それはコミュニティが崩壊している証拠である。

同様に、日本に「福祉施設」が増えているのは、本来の「家族」が

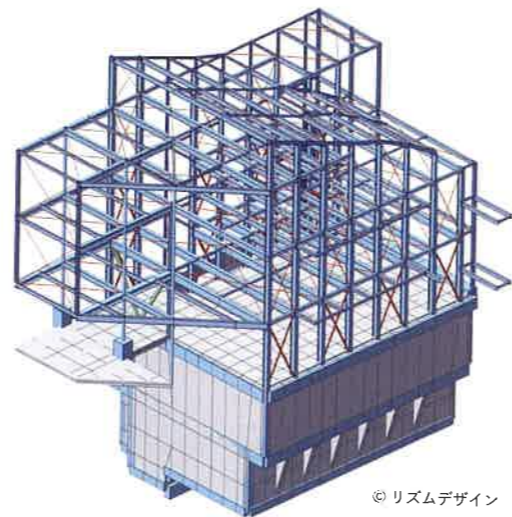
崩壊している証拠でもある。都市部では地価が高く3世帯が住む家を持ってない。その状況が「福祉施設」を生んでいる。

ここに紹介する6施設はすべて「児童福祉施設」である。親や家族ができなくなった「子育て」の部分の補うためにつくられた「施設」になる。

「児童福祉施設」は最低限のスペースを確保して、そこに子どもとスタッフを押し込み、義務をはたすのみの建物ではなく、働く人たちや子どもたちにとっても、ストレスがなくいつまでも居たいと思える空間にしなければならない。

(「福祉施設」は人を幸せにする「施設」であるから)

私たちはそのために、山際でも、都会の中であっても、緑を植え、そこに建物を開き、モンスーン気候を意識した通風を取り入れ、太陽からの光を沢山取り込み、カーテンなしで、風景と視覚的につながる広々とした空間をつくる。それを合理的な構造体を考えることによって予算内で実現させる。



©リズムデザイン

私たちは、扁平な柱を2メートルピッチで配置し、そこが本棚や展示棚になり、建物全体が展示空間となるように、構造システムを考えた。

当初は垂木構造の木造で考えていたが、スパンを飛ばす必要があり、途中から鉄骨造になった。結果的に、鉄骨の扁平柱と梁が垂木のように並ぶ、限りなく木造に近い構造体となった。

福祉施設としての採光と自然換

気、排煙規定を満たすように、側面の両側に換気用、採光用の窓を羅列させ、将来、短編方向にどこで間仕切っても成り立つようなシステムとした。

窓が開かない事務所ビルと一見して違うのは、自然の風が通り抜ける多くの開口部空間と連続するテラスがあり、テラスや窓のガラスは子どもたちの表現の場にもなっていることである。



地下2階のアプローチは庭師/山口陽介さんの仕事



2人の女性と区長の思いが形に

「景丘の家」は長谷部健洪谷区長が推進していた「子供テーブル事業」…子どもの居場所づくりの一環として作られた。

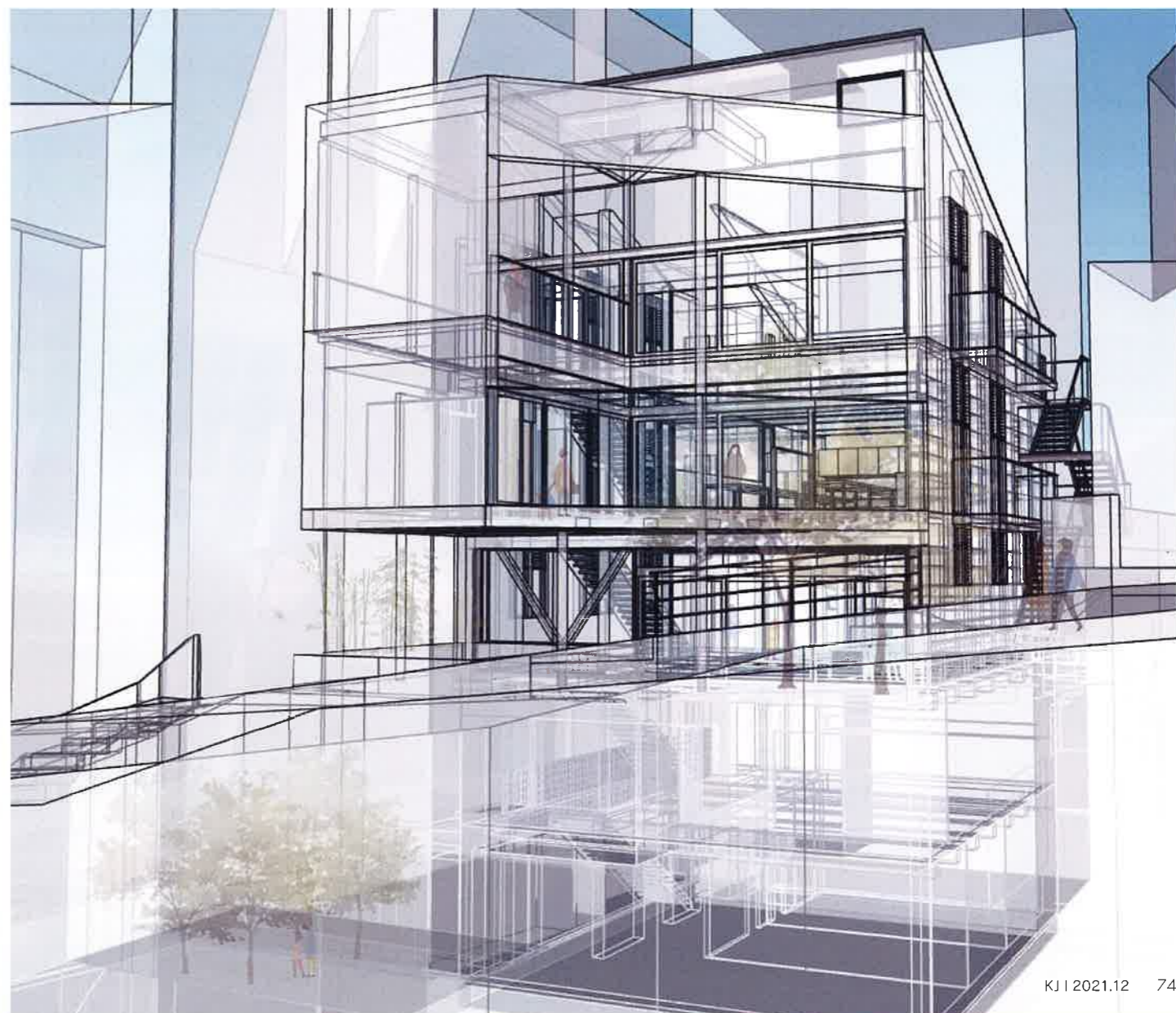
渋谷区、JRR山手線の恵比寿駅から恵比寿ガーデンプレイスに到達するコンコースの途中から見える場所に位置する。駅前の道路のレベルはこの建物では地下2階のレベルで、坂を2層分のぼったレベルに1階のロビーがある。

この建物の土地と資金は、かつてこの土地と建物を所有し住んでいた、宮司ひさるさんが「子どもたちのために役立てて欲しい」として渋谷区に寄付したものであった。

これまでは、地域の人たちに貸し出され、使われていたが、老朽化が進んだことで、子どもたちの居場所として、建て替えることになった。

運営者は代官山と南新宿にそれぞれ「代官山ティーンズ・クリエィティブ」と「かぞくのアトリエ」を運営していた「マザーディクシヨナリー」が選ばれた。

運営者の尾美紀左子（旧姓・桑原）さんは、子育てをしている親、子どもの居場所づくり、子どもが魅力的な大人と出会える場所をつくることを必死になっっておこなっていた。





テーブルトップ：左宮職人／都倉達弥さんの仕事



茅葺職人／相良育弥さんの仕事



道具：金属職人／末松貴久さんの仕事

オープン以降多くの人が訪れ、コロナ禍の昨年も4万人が利用した。尾美さんは、第3番目の「景丘の家」を「子供と食」をテーマに据え、1階はみんなが集える大きな囲炉裏（いろり）、2階はみんなで食事をつくって食卓を囲う、3階は小さな子どもとやってきて、一緒に過ごす、地下1階では体を動かす、地下2階では音楽やダンス、という活動に空間を割り当てた。



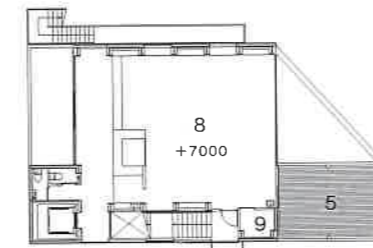
雪のオブジェ：竹細工師／山崎大造さんの仕事



1F平面図



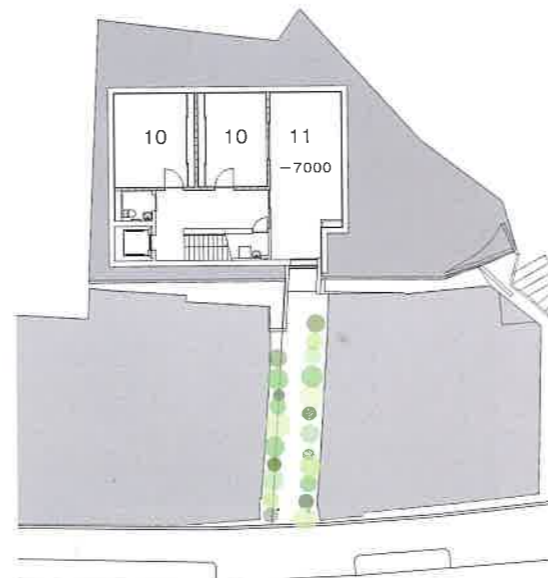
2F平面図



3F平面図

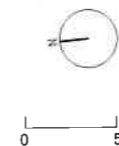


B1F平面図



B2F平面図

- 1. ロビー 2. キッチン 3. 子どもテーブル
- 4. 事務所 5. テラス 6. 更衣室
- 7. 倉庫 8. およこフロア 9. プレイフロア
- 10. スタジオ 11. 自転車置き場



東京ゆりかご幼稚園
「森のゆりかご」
MORI NO YURIKAGO



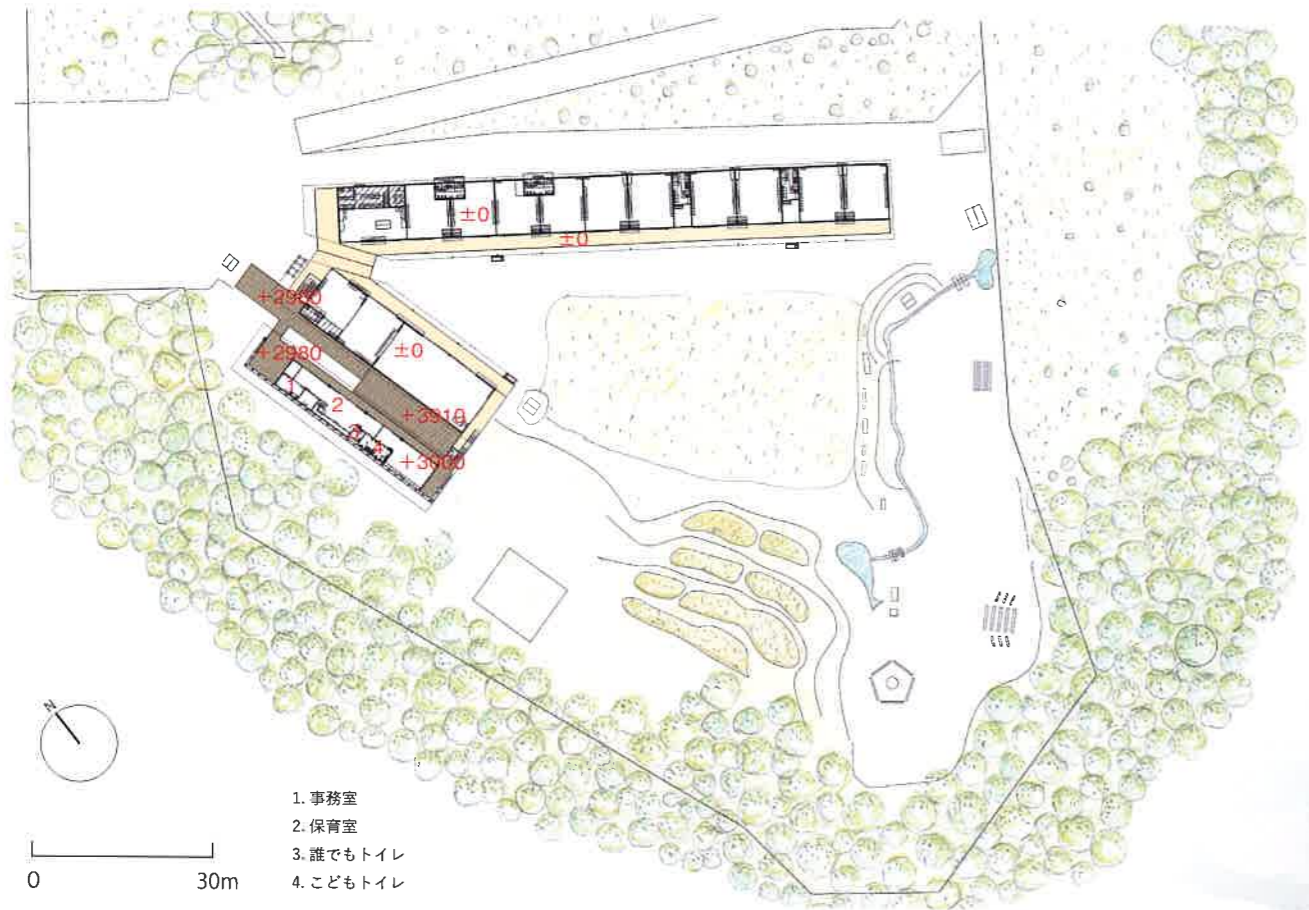
土留めを構造体を使う

乳児の保育への要求が高まり、小規模保育園を増築することとした。レベルの関係で、この場所には将来保育スペースを確保する予定であり、当初の工事にはアプローチのための階段や園庭となる屋上スペースがすでに準備されていた。最終的には建築コストの高騰で、当初の計画案よりも内部空間を大幅に縮小さざるを得なくなった。

土留めのL型のコンクリート躯体から柱を立てて、その上に屋根を載せるシンプルな構造体を考えた。構造はコンクリートの壁や柱の上に大きなスチールのツメ（金物）をつけて木造の屋根を支えており、確認申請上はコンクリート造となっている。

コンクリートの上に羽根状のスチール金物で屋根とコンクリートの躯体を離し、そこで採光と通風を確保している。

屋根の勾配は既存の園舎と合わせ、園庭から見ても、既存園舎の背後に隠して、存在がわからないように慎重に建物の高さや位置が決められた。



- 1. 事務室
- 2. 保育室
- 3. 誰でもトイレ
- 4. こどもトイレ

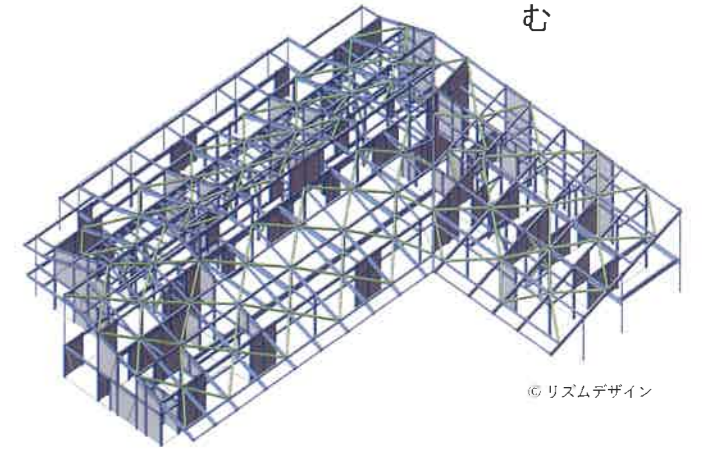
0 30m



みさと保育所

森に近づけ開放する
下と上で視覚的な交流を生む

南側の園庭に新園舎を建てて、引越して既存園舎を解体するという手順を踏んだ。そのことにより、園舎は森に近づき、3方が樹木で囲われ、どの窓からも樹木と空が見え、視線を遮るためのカーテンが不要で開放的な建物となった。



©リズムデザイン



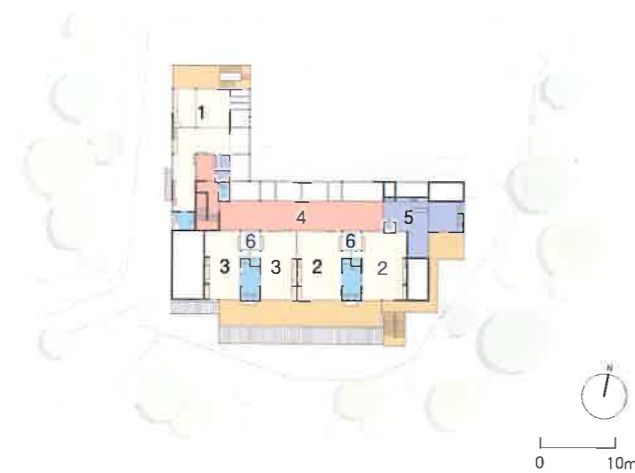
©永石秀彦



©永石秀彦



- 1. 3才児
- 2. 4才児
- 3. 5才児
- 4. ホール
- 5. 事務室
- 6. 保健室
- 7. 収納・給湯
- 8. 会議室
- 9. 更衣室
- 10. 厨房



- 1. 0才児
- 2. 1才児
- 3. 2才児
- 4. ホール
- 5. 休憩室
- 6. 「風と光の筒」



0 10m



「自然の冷房」

夏季には、森がある南側から森の冷気を取り入れ、暖気は上の窓から捨てる「自然の冷房」となるよう断面が考えられた。中央の空間の採光や換気を確保するために、「風と光の筒」が2カ所に挿入された。

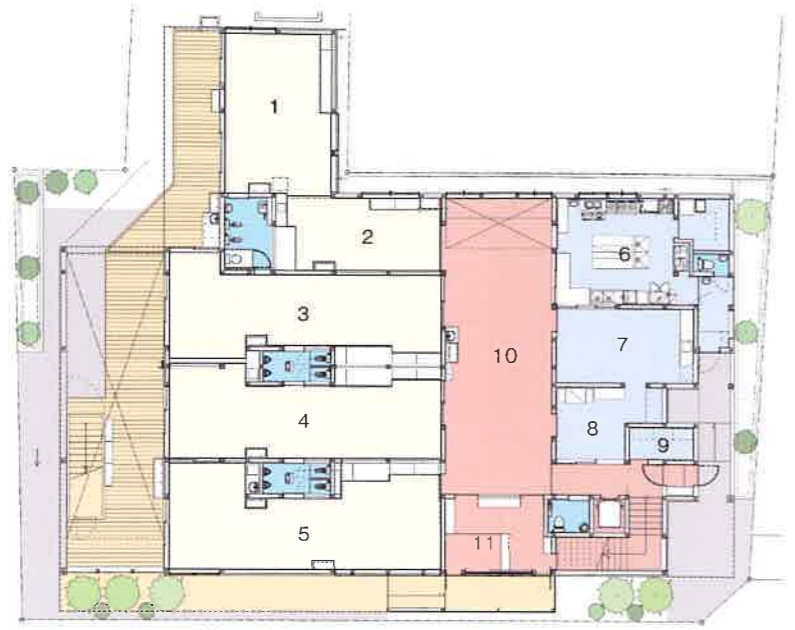
「風と光の筒」や吹き抜けを通じて上下階の視線が通るようになり、上から下を眺め、下と上のことも同士が手をふる様子が日常的にみられるようになった。



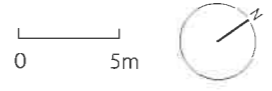
梅丘至誠保育園
UMEGAOKA SHISEI NURSERY



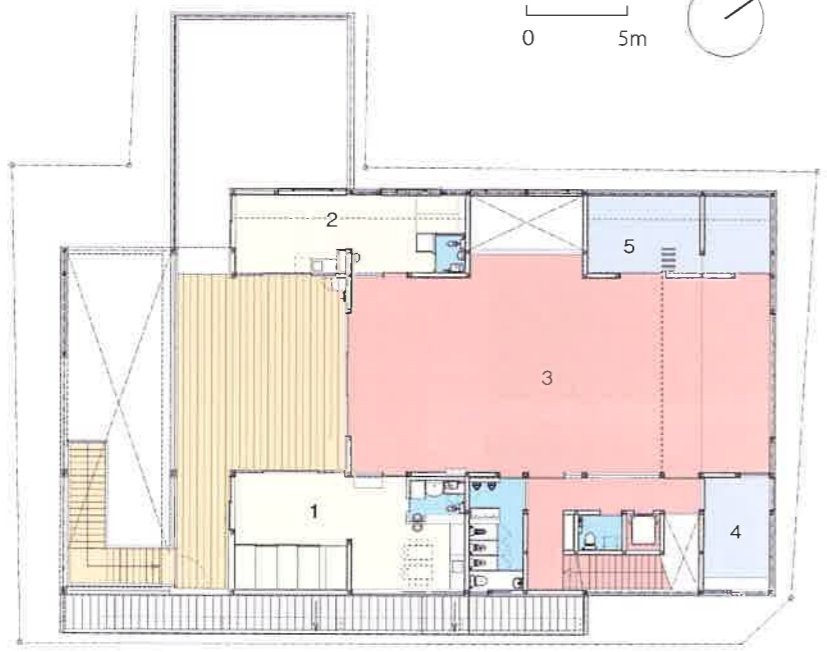
- 1.1才児
- 2.2才児
- 3.3才児
- 4.4才児
- 5.5才児
- 6.厨房
- 7.ワークルーム
- 8.事務室
- 9.更衣室
- 10.ダイニング
- 11.エントランス



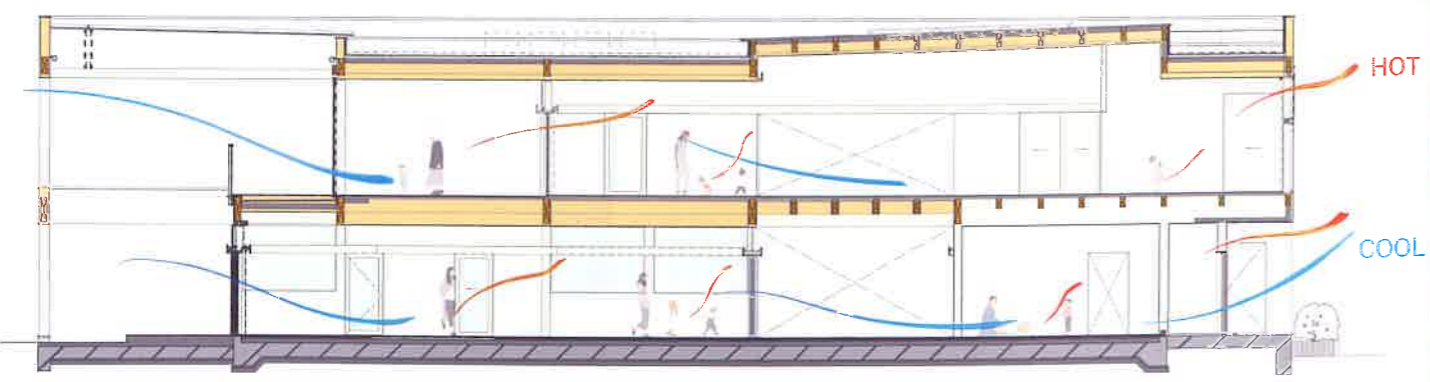
1階平面図



- 1.0歳児
- 2.子育て支援室
- 3.一時保育
- 4.相談室
- 5.収納



2階平面図



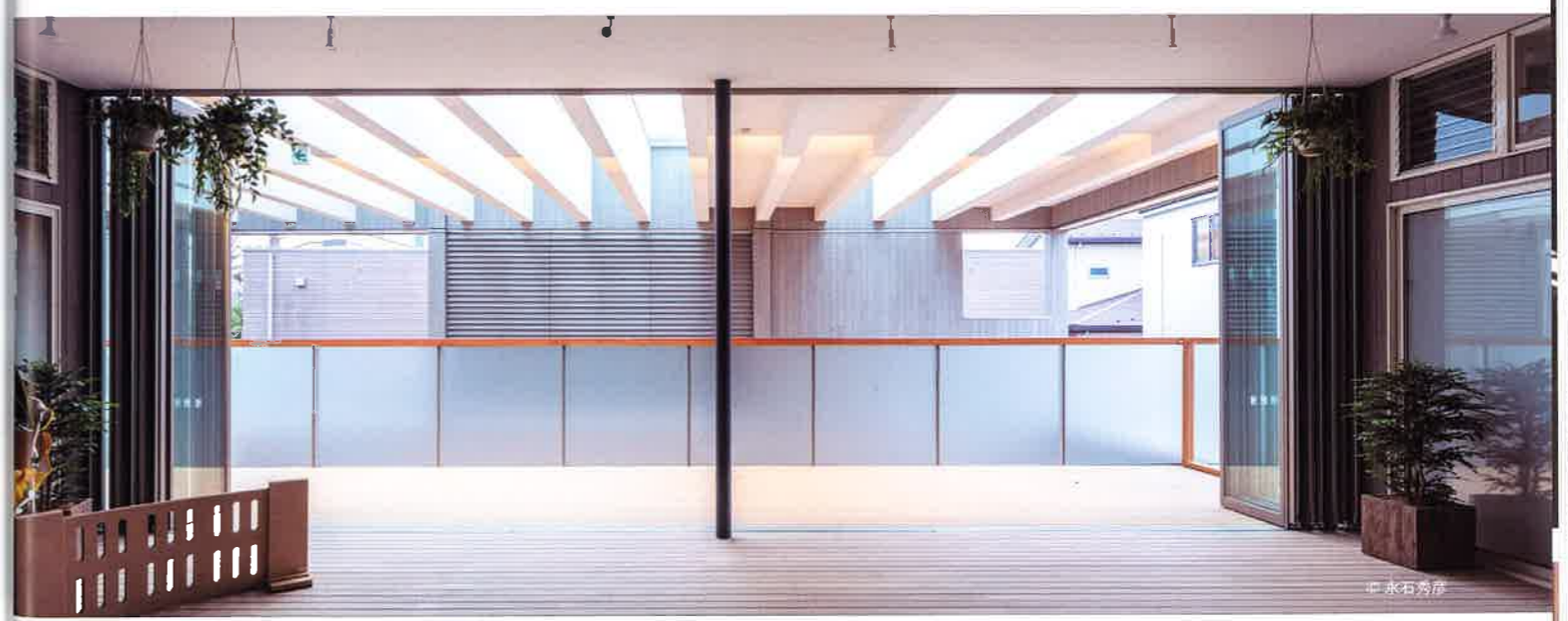
断面図



囲いながら開く都市型の園舎

建物の2方は隣地の集合住宅に接しており、視線が交わらないように、2階のレベルで外部を囲いこみ、その外部空間には光を拡散させるルーバーとガラスの屋根をかけた。雨と視線が入ってこないその外部空間に対して保育室を開き連続させることで、ちょうどよい光に満ちた奥行き長い空間を獲得している。

各窓や2階のテラスからの眺望は壁により調整され、どの窓や開口にも視線を遮るためのカーテンは不要である。



北鎌倉保育園 さとの森

KITAKAMAKURA NURSERY SATO NO MORI

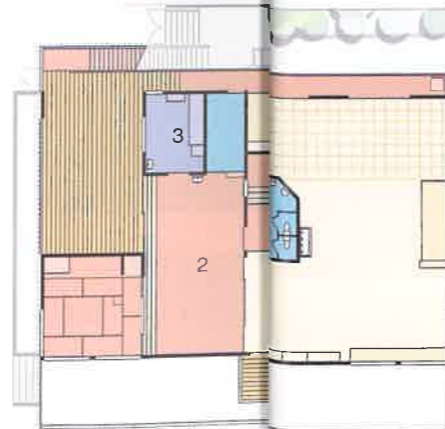


- 1. 0才児
- 2. 1才児
- 3. 2才児
- 4. ダイニング
- 5. 事務室
- 6. 厨房



0 5m

1階平面図



- 1. 3・4・5才児
- 2. マルチルーム
- 3. キッチン

2階平面図



道からのプライバシーが得られ、園舎からは塀の圧迫感を減じることができた。大谷石の塀は既存のものを補強して使った。

景観条例があるので、高さが抑えられ、屋根の傾斜は1/10しか確保できなかったが、道路からは軒うらが視覚に入ってくるので、和風の表現は獲得できたのではないかと考える。

2階床を支える垂木構造の梁間に換気と排煙のための窓を設けるために、必要とされる垂木のせいを大きくして収めた。

森があった。

以前、この敷地には大きなコンクリート造の邸宅があり、それを解体して、木造の園舎を建てた。庭木や庭石は必要な分だけ残し、遺跡の関係もあり、敷地のレベルは変えず、道路から約1メートルの高さのままで使用した。高低差を生かし、低い塀をつくることで、

後ろには崖があり、その上には森があった。

以前、この敷地には大きなコンクリート造の邸宅があり、それを解体して、木造の園舎を建てた。庭木や庭石は必要な分だけ残し、遺跡の関係もあり、敷地のレベルは変えず、道路から約1メートルの高さのままで使用した。高低差を生かし、低い塀をつくることで、

歴史の中でおこなう保育

北鎌倉の円覚寺の塔頭のひとつが運営する保育園である。保育園をつくるにあたり、社会福祉法人を新設した。

寺院がどう社会に貢献していいのか、僧侶はお経をあげていれよいか、1人の僧侶の決意がこの保育園の開設につながった。

後ろには崖があり、その上には



Pico ナーサリ玉川上水公園
PICO NURSERY TAMAGAWA JYOUSUI PARK

狭い居住空間、核家族化、共働きをしなければ暮らして行けないなどの、都市特有の問題から生じる弊害で、いつの時代においても、しわ寄せは弱者であることもたち集中してしまう。

保育園や児童養護施設、高齢者施設などの福祉事業が担っている

大人たちのためには、コロナ感染者の隔離病棟や、ホテルでの隔離空間は随分と確保され、重症化する集中治療室（ICU）に入る。

それに対し、こどもはコロナウイルスにはほとんど感染しないが、大人から虐待され、心身ともに傷を負って重症化しても、入る児童養護施設や精神病棟がない。

重篤化するこどもたち

不登校児は年々急増している。しかもコロナ禍の中、さらに増えた。

リモートワークが増えて、父親が家庭でこどもに暴力を振るい、養護施設に保護されるケースも激増した。

そのような背景にあるのは、家の空間の狭さ、保育所などの児童施設のスペースの作られ方の影響が少なくない。

重篤化するこどもたち

ことは、かつての家族が「普通に」やっていたことだった。その家族を都市部では持てないのである。

家族をとりもどす

私たちは、18年以上の間、スラム化した「ジョンソントウン」の復興の事業に関わってきた。その頃は、居住者は高齢化し、こどもは1人も住んでいなかった。

しかし、古い米軍住宅を改修し、1階をお店にして2階に住める「平成ハウス」を40軒ほど新築した結果、こどもは50人を超え、そこでお店を運営したりリモートで仕事する居住者数は70世帯にのぼった。

コロナ禍でも、当初の緊急事態宣言時に来訪者が40%まで落ち込んだが、それ以降は回復した。

居住者同士は仲が良く、1人で住んで働く人も孤独ではない。路上や居住者が運営するお店がコミュニケーションの場となっており、会話が活発に生ずるまじり、まるで「新しい家族」のようである。

アメリカは、世界恐慌時、世界大戦後などに、農村で働く移民たちのため、戦場から戻ってきた若者たちが家族を持てるように、国が大量の住宅を供給し、若い労働者が家族を持ち、安心してこども



ジョンソントウン

渡辺 治

を生育てられる環境を作ってきた。その時に供給された住宅は戸建てだった。

どんな形でも自分を気にして住める「家族や仲間」がいること。こどもは自分の存在価値を見出せ、孤独ではなく生き生きモチベーションを得ることが出来る。

都心での子育ては児童福祉施設で補完しなければならないが、リモートワークが可能になってきた今、都市の緑地部でこのようなまちづくりをおこなって「新しい家族」として取り戻せる可能性が高まっているのではないかと。

作品概要

景丘の家

所在地：東京都渋谷区
 建築主：社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会
 会長 内藤 千代子
 設計監理：渡辺設計 / 渡辺 治、山崎 智貴、柳 文相、沖水 理恵
 構造：リズムデザイン / 中田 琢史
 設備：三高設計 / 池宮城 慎作、石丸 隆行
 施工：奥井建設
 敷地面積：173.96㎡
 延床面積：763.39㎡
 構造規模：鉄骨造 地上3階 RC造 地下2階
 竣工：2019年2月

東京ゆりかご幼稚園【森のゆりかご】

所在地：東京都八王子市
 建築主：学校法人東京内野学園
 理事長 内野 彰裕
 設計監理：渡辺設計 / 渡辺 治、岡崎 雅樹、山崎 智貴
 構造：リズムデザイン / 中田 琢史、齊藤 美幸
 設備：三高設計 / 池宮城 慎作、石丸 隆行
 施工：砂川建設 / 細阿 勲、大塚 光明、山内 博平
 敷地面積：21,975.00㎡
 延床面積：248.03㎡
 構造規模：RC造 一部鉄骨造
 竣工：2019年3月

みさと保育所

所在地：東京都多摩市
 建築主：社会福祉法人東京児童福祉協会
 理事長 大河内 茂美
 所長 阿部 幸恵
 設計監理：渡辺設計 / 渡辺 治、山崎 智貴、坂本 紀恵、田中正道、岡崎 雅樹、沖水 理恵、早川 達
 構造：リズムデザイン / 中田 琢史、齊藤 美幸
 設備：三高設計 / 池宮城 慎作、石丸 隆行
 施工：相互建設 / 加藤 三喜男、斎藤 伸介
 敷地面積：3,592.85㎡
 延床面積：1,302.85㎡
 構造規模：木造
 竣工：2021年5月

梅丘至誠保育園

所在地：東京都世田谷区
 建築主：社会福祉法人至誠学園立川
 理事長 橋本 正明
 設計監理：渡辺設計 / 渡辺 治、川合 麻美、江川 玄、沖水 理恵
 構造：リズムデザイン / 中田 琢史、齊藤 美幸
 設備：ヤマダマンナリーオフィス / 山田 浩幸
 施工：砂川建設 / 奥山 直樹、日野口和美
 敷地面積：856.38㎡
 延床面積：968.24㎡
 構造規模：木造
 竣工：2021年1月

北鎌倉保育園 さとの森

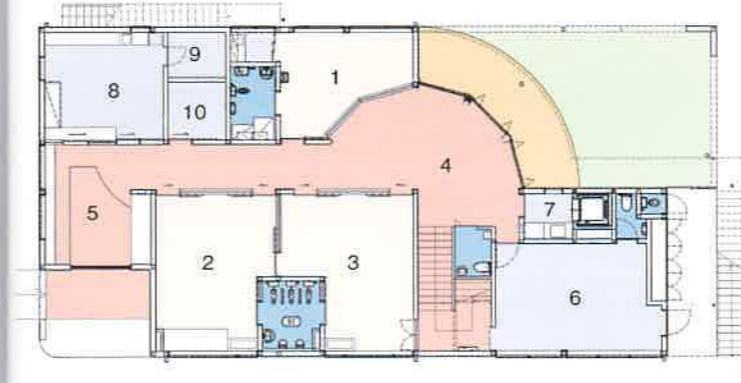
所在地：神奈川県鎌倉市
 建築主：社会福祉法人 誠志の谷戸
 設計監理：渡辺設計 / 渡辺 治、山崎 智貴、田中正道、田邊 雅久、北畑 栄
 構造：リズムデザイン / 中田 琢史、齊藤 美幸
 設備：ヤマダマンナリーオフィス / 山田 浩幸
 施工：砂川建設 / 大塚 光明、奥山 直樹、尾形 光弘
 敷地面積：986.40㎡
 延床面積：695.87㎡
 構造規模：木造
 竣工：2020年3月

Ploo ナーサリ玉川上水公園

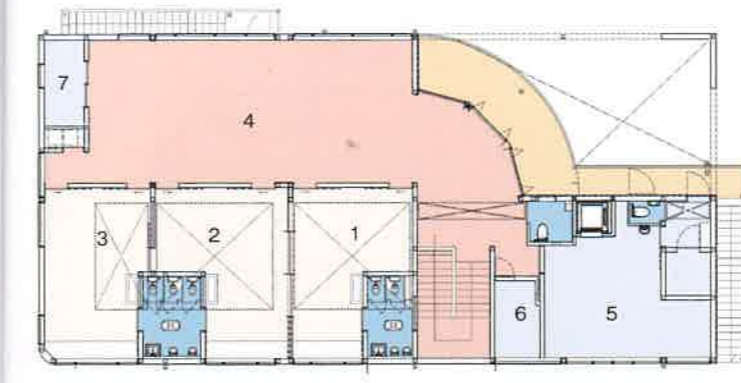
所在地：東京都杉並区
 建築主：社会福祉法人 風の森
 理事長 野上 宏
 設計監理：渡辺設計 / 渡辺 治、川合 麻美、江川 玄
 構造：リズムデザイン / 中田 琢史
 設備：三高設計 / 池宮城 慎作、石丸 隆行
 施工：砂川建設 / 松井 由隆
 敷地面積：1,000.20㎡
 延床面積：652.48㎡
 構造規模：木造
 竣工：2020年1月



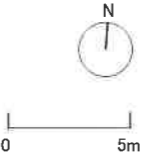
社会福祉法人をつつてから、6つ目の保育園。公園の中につくるプロポーザルで選定された。



- 1.0才児
- 2.1才児
- 3.2才児
- 4.ダイニング
- 5.エントランス
- 6.子育て支援室
- 7.パントリー
- 8.事務室
- 9.収納
- 10.相談室



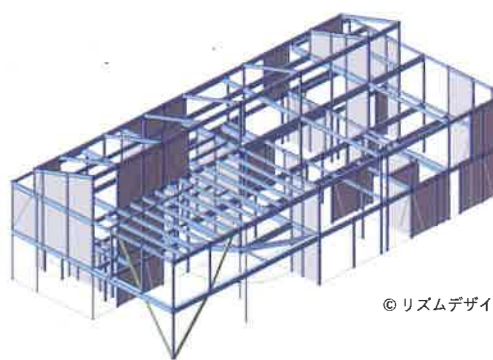
- 1.3才児
- 2.4才児
- 3.5才児
- 4.ホール
- 5.厨房
- 6.更衣室
- 7.収納



公園と連続する半戶外空間

温暖化が進み、年々夏の日差しは強くなり、気温も上昇している。直射光下の屋外でこどもたちを長時間遊ばせることは、熱中症などのリスクが高く、空中に日除けなどを吊るして、なんとか日陰をつくらせて工夫することが増えてきた。

幼少期の運動は筋肉や運動神経の発育上重要である。どのようこどもが体力をつけるような日常的な空間を用意するかは重要課題となってきた。



©リズムデザイン

広い公園の空間と連続する大きな半戶外空間をつくり、屋根は大きなルーバーとガラスでできており、適度に直射光を弱め、雨が当たらない空間を提供している。

気候がよい時期には、この空間と内部空間との間にあるサッシを全開にし、連続させることで、全体が運動空間となる。

現在この空間に機能訓練のための遊具を計画している。